

平成22年度高鍋町事務事業評価表

◎事務事業の概要

事務事業名	郷土作家シリーズ事業				開始年度	21年度		
基本目標	美術館の充実				終了年度	21年度		
担当課(局)	社会教育課(美術館)	担当係	総務学芸係	記入者	小森 隼		評価者	中野 恵一
21年度決算	195	千円	22年度予算	139	千円	事業の実施方法	<input type="checkbox"/> 補助	<input checked="" type="checkbox"/> 単独
21年度人件費	729 千円		22年度人件費	723 千円		事業従事者数	0.10 人	0.10 人

◎事務事業の目的・内容

事業の目的	地域の芸術文化の発信地としての役割を果たす。
事業の内容	郷土作家シリーズ⑦「加谷径華現代書展」を開催。高鍋出身で関東で活躍する加谷径華さんの、詩や絵画のような象形文字など現代的に洗練された書を52点展示。同展開催に伴い、作家本人と詩人の青木マリさんの講演会を開催。郷土出身作家の活動を、町内外問わず広く県民に紹介。

◎成果指標と活動指標

成果指標	成果指標名	何を狙い、どのような成果が得られたのか
	# 観覧者数	観覧者数の増加で、より多くの人に芸術に親しんでもらう。
	2 観覧料収入	同展(無料)開催期間中の常設展観覧料収入
活動指標	活動指標名	どれほどの活動をしたのか、事業の手法、手順等を詳細に
	# 広報活動数	県内の美術館や各報道機関へチラシ・ポスター等の配布
	2 関連イベント開催数	展覧会開催に伴う講演会等の開催
	3 取材依頼数	新聞記事やテレビ等での報道依頼

◎達成状況

		指標名	単位	20年度	21年度	22年度
成果指標	観覧者数	目標値	人	1,000	1,000	1,000
		実績値		998	704	
		達成率		99.8%	70.4%	
	観覧料収入	目標値	円	21,000	21,000	21,000
		実績値		11,160	11,130	
		達成率		53.1%	53.0%	
		0		#DIV/0!	#DIV/0!	
活動指標	広報活動数	目標値	回	2	2	2
		実績値		2	2	
		達成率		100.0%	100.0%	
	関連イベント開催数	目標値	回	1	1	1
		実績値		2	2	
		達成率		200.0%	200.0%	
	取材依頼数	目標値	回	1	1	1
		実績値		1	1	
		達成率		100.0%	100.0%	

◎事務事業の評価

妥当性 (必要性)	◎目的からして町が行うべきか ◎同様の事業を他課・他団体で行っていないか ◎事業廃止による影響があるのか	郷土にゆかりのある芸術作家の成果発表、活動紹介の場として広く発信していく必要がある。当事業における書展の開催は初めてであった。今後も多様なジャンルの作家を紹介していきたいが、郷土出身というしほりがあるため人数にも限りがあり隔年開催も考えられる。
有効性	◎目標に対して成果は得られているか ◎成果向上のための改善余地があるか	関東で活躍する現代書家で、洗練された書や若山牧水の詩歌などを展示したが、観覧者数は若干伸び悩んだ。五行詩作家の青木マリさんと合同で講演会を開催し、作家活動により深く触れることができた。
効率性	◎活動量の効果は上がっているか ◎経費や時間の削減余地があるか	無償で作品を借りての展覧会開催である。
協働性	◎町民との協働の可能性はあるか(ボランティア・NPO等)	当町出身の作家ということもあり、同級生等が広報などで多大な協力をしてくれた。ボランティア等を募り、展示室の監視や作品の説明を行ってもらうことは可能である。

事務事業名	郷土作家シリーズ事業	担当課(局)	社会教育課(美術館)
-------	------------	--------	------------

◎総合評価(今後の方向性を含む)

総合評価	◎担当の方針に対する評価者としての所見 ◎統括者として、どのように事業を進めるべきと考えているか、等	郷土作家シリーズも7回目となり、内容も充実してきた。21年度は郷土作家シリーズとして初めての書展であった。書展は集客が難しい分野かと思われるが、町内外の同級生・友人等の協力により、観覧者数は目標値よりも若干下回っているものの、30人/日近い集客となり、町の文化意識の向上に寄与できたと思う。『高鍋町出身』という縛りを見直し、「高鍋高校出身」「現高鍋町在住」等、範囲を広げるのも検討すべきと思う。	今後の方向性					
			事業の方向性	拡充			○	
				現状維持				
				縮小				
				廃止				
		廃止	縮小	現状維持	拡充			
コスト								

事務事業評価委員会 評価欄	事業	拡充	◎文化の発信基地として、しっかりとした事業を展開し、町民に親しまれる美術館運営を望む。 ◎少ない予算で企画するのは大変だろうが大切な事業である。 ◎どのような郷土作家がいるのか、あまり知られていないので、とにかく周知する工夫が必要である。
	コスト	現状維持	